

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

N o . 64 平成21年4月（平成21年1月～3月分）

西海区水産研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）	
研究の動向	山口県	*3月、アマダイ延縄漁獲試験	*間伐材魚礁調査 *3月定線観測 *貝毒原因プランクトン調査 昨年11月上旬に仙崎湾で発生したギムノデニウム カテナータムの密度は、水温低下に伴い低下し、マガキを対象としたマウス試験でも規制値の4MU/gを下回ったので、当海域の二枚貝及び養殖マガキの出荷自主規制を2月17日に解除した。	*アカアマダイ種苗生産試験： アカアマダイ種苗4.2万尾を本県日本海側に標識放流した。 *トラフグ放流効果調査主に山口県船が水揚げしたトラフグを対象に市場調査を実施し、2,901尾を調査し、50尾の右胸鰭切除標識魚を検出し、耳石標識により放流群を特定した。	*近赤外測定器によるマジ脂肪量の測定について、検量線を作成した。
	福岡県	*筑前海： ・イカナゴ稚魚調査 ・コウイカ、ケンサキイカ漁獲調査 ・トラフグ放流、資源調査 *有明海： ・タイラギ調査 ・アサリ調査 ・その他魚介類漁獲状況調査 *豊前海： ・アサリ資源量調査 ・小型底びき網調査 ・魚礁調査	*筑前海： ・浅海、沿岸、沖合各定線調査 ・漁場環境保全調査(漁場環境調査、赤潮発生監視調査、貝毒発生監視調査) ・水質監視調査 ・貝毒プランクトン調査 ・貝類毒化モニタリング *有明海： ・浅海定線調査 ・貧酸素水塊漁業被害防止対策(栄養塩分析) ・赤潮調査 ・ノリ養殖漁場水質調査 ・貝毒モニタリング調査 *豊前海： ・新漁業管理制度推進情報提供事業調査(旧浅海定線調査) ・漁場保全調査 ・赤潮、貝毒調査 *内水面： ・筑後川・矢部川水質調査	*筑前海： ・アワビ放流効果調査 ・カキ、ノリ、ワカメ養殖指導 ・フトモズク養殖試験 ・ノリのDNA解析試験 ・トラフグ放流効果調査 ・アマモ増殖試験 *有明海： ・ノリ育種研究 ・アサクサノリ養殖研究 ・河川水最適利用技術開発(色落ちノリ対策) *豊前海： ・カキ養殖調査 ・ノリ養殖調査 *内水面： ・小石原川・佐田川調査 ・アユ冷水病検査 ・ハヤの資源回復事業によるハヤ稚魚放流	*筑前海： ・アサリ、カキ等加工試験
	佐賀県	*玄海： ・資源評価調査 *有明： ・タイラギ生息状況調査 ・ウミタケ生息状況調査 ・漁獲物動向調査(市場調査) ・サルボウ生息状況調査 ・干潟調査(アサリ、カキ礁)	*玄海： ・漁場環境調査(玄海一円) ・貝毒モニタリング(HPLC) ・藻場調査(玄海町仮屋) ・磯焼け対策調査 ・温排水影響調査 ・自動観測ブイ水温・塩分観測(3点) *有明： ・浅海定線調査 ・漁場環境モニタリング調査(底質、マクロベントス) ・赤潮調査 ・貝毒分析 ・赤潮・貧酸素水塊漁業被害防止対策調査の分析	*玄海： ・カサゴ、オコゼ、クエ追跡調査 ・トラフグ漁獲物調査 ・クルマエビ追跡調査 ・アワビ、アカウニ種苗放流 ・アワビ種苗放流 ・マナマコ調査 ・アカガイ養殖試験(伊万里湾)、成果品の試験出荷(築地市場) ・アカウニ種苗配布 ・カサゴ稚魚飼育 ・トリガイ親貝養成 ・アオナマコの種苗生産開始 *有明： ・アゲマキの困窮提を使用した底質改善試験 ・アゲマキ中間育成試験	*玄海： ・魚肉ソーセージ開発試験 ・加工研究会アンテナショップを設置(鎮西町)

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 64 平成21年4月（平成21年1月～3月分）

		水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）
研 究 の 動 向	佐賀県			<ul style="list-style-type: none"> ・アゲマキ種苗放流技術開発試験 ・タイラギ資源回復調査 ・タイラギ斃死原因究明調査 ・サルボウ濾水速度試験 ・シカメガキ・イタバガキ垂下養殖試験 	
	長崎県	<ul style="list-style-type: none"> ・アマダイ調査(対馬：1～3月) ・アジ、サバ調査(西彼：1～3月) ・イカ類調査(対馬、壱岐：1～3月) ・キビナゴ調査(五島：1～3月) ・タチウオ調査(橘湾：1～3月) ・イカ釣り水中灯試験(壱岐：1～3月) ・天然礁調査(五島南西沖：1,2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・沿岸定線調査(五島灘、西沖：1～3月) ・浅海定線調査(有明海：1～3月) ・赤潮調査(薄香湾：1,2月) ・貝毒調査(対馬地区：1～3月) ・" (島原地区：1～3月) ・干潟域環境・アサリ調査(小長井町：1～3月) 	<ul style="list-style-type: none"> * 追跡調査： <ul style="list-style-type: none"> ・放流トラフグ：1～3月 ・放流ガザミ：1～3月 ・放流ヒラメ：1～3月 ・放流ホシガレイ：1～3月 * 天然資源、漁獲実態調査： <ul style="list-style-type: none"> ・トラフグ漁獲物調査：1～3月 ・オニオコゼ漁獲物調査：1～3月 ・ガザミ漁獲物調査：1～3月 ・ホシガレイ漁獲物調査：1～3月 * 種苗生産、中間育成： <ul style="list-style-type: none"> ・アカアマダイ 12月上旬に生産した稚魚を引き続き中間育成中(3月31日時点：全長10cm、約1,400尾) ・アカアマダイ(人工生産親魚) 12月下旬に生産した稚魚を引き続き中間育成中(3月31日時点：全長7cm、約400尾) ・ホシガレイ 1月上旬に橘湾で漁獲された天然親魚を用いて、採卵を行い、マダイ精子による雌性発生試験および雄化ホルモンによる偽雄作出試験を実施中 ・タイラギ生息状況調査(諫早湾) ・ノリ養殖漁場調査(島原半島地域) ・ペコ病の実態調査(シスト調査等) ・マハタのウイルス性疾病対策試験 ・トラフグ用医薬品の臨床試験 ・カワハギ養殖試験(委託) ・電解ろ過水槽の実用化 ・養殖魚の肉質に関する調査 	<ul style="list-style-type: none"> * 加工技術など指導(1～3月)・技術相談126件574人 (内施設利用64件114人) ・研修会10回382人 ・巡回指導18回36人 ・来訪者412人 * 研究技術開発： <ul style="list-style-type: none"> ・発酵技術を利用した水産加工新製品の開発 ・イカ肉の高度有効利用技術の開発 ・長崎県産魚を原料とした機能性醗酵食品(さかな味噌)の開発 ・塩干品高品質化原料調査事業
	熊本県	<ul style="list-style-type: none"> ・マダイ・ヒラメ・クルマエビの放流魚混獲率調査 ・カタクチイワシ資源量調査 ・卵稚仔調査・稚魚調査 ・藻場関係調査 ・アサリ干潟調査 ・タイラギ資源モニタリング調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・有害プランクトン等モニタリング調査 ・浅海・内湾定線調査 ・浦湾(養殖漁場)調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続的養殖生産推進事業 ・養殖魚介類生産安定対策事業 ・環境適応型ノリ養殖対策試験 ・海面養殖ゼロエミッション推進事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物付加価値向上事業 ・水産物安全安心確保推進事業

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

N o . 64 平成21年4月（平成21年1月～3月分）

	水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）	
研究の動向	大分県	<ul style="list-style-type: none"> * 沿岸、浅海定線調査 * 貝毒調査 * 磯焼け対策調査 * 養殖漁場環境調査 * 河川環境調査 	<ul style="list-style-type: none"> * 耐病性アコヤガイ養殖試験 * ヒジキ増養殖試験 * クルマエビ、カサゴ、トラフグ、アサリ、マコガレイ放流効果調査 * マハタ、イワガキ、イタボガキ、ミルクイ養殖試験 * ドジョウ稚魚生産供給及び生産技術指導 * スッポン有料親亀及び県産アマゴ親魚の養成 * アユ遡上調査 * アユ冷水病保菌検査 * 淡水魚養殖漁家巡回指導 	<ul style="list-style-type: none"> * プリ肉質評価試験 	
	宮崎県	<ul style="list-style-type: none"> ・ * 主要浮魚類資源調査 ・ * 高度回遊性魚類調査 ・ * 資源回復計画関連調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ * 沿岸定線調査 ・ * 沖合定線調査 	<ul style="list-style-type: none"> * 平成19年に襲来した台風によりウニ類が減少した延岡須美江地先にホンダワラ類母藻投入による藻場の回復を試みた。母藻投入用具として回収の必要のない、海中で自然分解するシュロ縄、麻布、自然石等を用いた用具を作成した。母藻投入7ヶ月後の平成21年1月、約3,530㎡の藻場形成を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> * 魚礁効果調査技術開発 * 水産利用加工 ・ 鮮度低下の早い魚種の鮮度保持試験 ・ 宮崎焼耐もろみ漬け(シイラ)水産加工品のブランド化
	鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> * 漁海況週報の発行：第2287～2298報 * 資源評価調査： アジ、サバ、イワシ等の精密測定、カタクチイワシ、マイワシ等の卵稚仔調査等 * モジャコ調査： 3/6～16、流れ藻の分布は昨年同期、平年同期に比べ少ないかったが、モジャコの付着状況は昨年同期、平年同期に比べ多い。大きさは、昨年同期より大型、平年同期より小型であった。 * アユの流下仔魚及び遡上調査： 1月流下仔魚調査1回、3月遡上調査4回実施。流下仔魚量は例年の3倍程度。遡上は、2月中旬から見られ(聞き取り)、3月初旬からまとまった量の遡上が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> * 沖合定線海洋観測：1～3月各1回実施 * 赤潮プランクトン定期調査： 鹿児島湾、八代海ともに1～3月各1回実施。鹿児島湾の2/28、3/19の調査でヘテロリングマアカシオを初期発生確認(3/19最高5 cells/ml)。八代海では有害プランクトンは確認されず。 * 温排水調査： 2/23～3/10に川内原発の冬季調査を実施。水温、塩分、流況を調査。 * 藻場造成試験(調査)： 笠沙、奄美大島の藻場調査を実施。 * 表面水温は、全海域月平均は1月は平年並み、2月はかなり高め、3月は各海域の旬平均で、平年並み～かなり高め。 * 黒潮北縁域(佐多岬～笠利埼間)は、短期的な離接岸を繰り返しながら、月平均では各月とも平均的な位置。ただし、3月は接岸傾向。種子島東の黒潮流軸位置は平均的な位置～接岸で推移。 	<ul style="list-style-type: none"> * ヤコウガイ種苗生産試験： 10/15～16採卵、10/21採苗(採苗数:35万個)したものを波板飼育。 * シラヒゲウニ種苗生産試験： 11/15及び1/15に採卵したものを波板飼育中。 * モクズガニ種苗生産試験： 1～2月に延べ5回の種苗生産試験を実施。生産は不調。稚ガニに変態したのは1回次のみ(1,600尾)。他はメガ期で大量減耗。 * カサゴ種苗生産試験： 1/14、20tトン水槽に腹部膨満親魚45尾を収容し種苗生産試験開始。飼育継続中。 	<ul style="list-style-type: none"> * 開放型実験棟(水産加工利用棟)の運用： 1～3月、延べ18団体43人利用 * 研修視察等の受け入れ状況： 1～3月、13団体、174人 * H P のアクセス件数： 1～3月、64,168件(20年度総計：351,810件、対前年比100%)

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 64 平成21年4月（平成21年1月～3月分）

	水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）
研究の動向	<p>沖縄県</p> <p>*特になし</p>	<p>*特になし</p>	<p>*シャコガイ増養殖技術開発事業 ヒメジャコ人工養殖基盤の開発試験を継続して実施中。現在は、人工基盤の水中硬化を抑制するための配合試験を行っている。</p> <p>*シャコガイ種苗生産事業 ヒレナシジャコ 8-15mm 稚貝15千個体 ヒレジャコ 8-15mm 稚貝10千個体 ヒメジャコ 5-15mm 稚貝46千個体 シラナミ 5-15mm 稚貝12千個体</p> <p>*ヤイトハタ早期採卵試験 加温飼育による環境制御に加え生殖腺刺激ホルモン放出ホルモン処理による早期採卵を試みた。2回のホルモン処理後2日目に人工受精を行った。雌の1個体からは約2kgの卵を採取し人工受精を行ったが未受精であった。別の1個体から採取した卵は少量であったが受精を確認した。</p> <p>*地下浸透海水を使用したヤイトハタ親魚養成・魚類種苗生産試験を行った。</p> <p>*ヤイトハタ生産事業 ワムシ・ナンノクロブシスの培養を開始した。</p>	<p>*特になし</p>